

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所  
「子どもの生活と学びに関する親子調査」  
「子どものICT利用に関する調査2023」

# 子どもの読書行動の実態

—調査結果からわかること—

2023年10月19日(木)

ベネッセ教育総合研究所





## ● 本資料の目的

子どもたちの読書行動の実態や読書行動に関連する要因を明らかにすることで、読書習慣の形成や読書推進の働きかけを検討するうえでの参考にする。

## ● 本資料の内容

### 調査概要【p.3】

#### 読書時間の実態【p.5】

全体、性や学校段階による違い【p.5】

性による違い【p.7】

希望進路による違い【p.9】

保護者の行動による違い【p.11】

#### 読書行動と関連する要因【p.13】

1年間で経験したこと【p.14】

特性/なりたい職業の有無【p.16】

#### 読書時間の個人変化【p.17】

#### 各メディアの利用時間【p.19】

#### 各メディアの時間の経年変化【p.21】

#### 紙版・電子版の利用率【p.23】

### 調査結果まとめ【p.4】

学年による違い【p.6】

成績による違い【p.8】

家の蔵書数による違い【p.10】

保護者の働きかけによる違い【p.12】

得意(理解・思考・表現)【p.15】

#### 読み聞かせの影響【p.18】

#### 読書時間の経年変化【p.20】

#### 紙版・電子版の利用冊数【p.22】



# 調査概要

## ●使用したデータ

分析に使用したデータは、①「子どもの生活と学びに関する親子調査」の2015～22年、②「子どものICT利用に関する調査」2023年（いずれも東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所による共同実施）である。

### ①子どもの生活と学びに関する親子調査 詳細は☞ <https://berd.benesse.jp/special/childedu/>

【調査テーマ】子どもの生活と学習に関する意識と実態（子ども調査）/保護者の子育て・教育に関する意識と実態（保護者調査）……同一の親子を対象に2015年から継続して追跡する縦断調査

【調査時期】各年7～9月

【調査方法】調査依頼は各回とも郵送で実施、回収は2015年郵送・WEB併用、16～20年郵送、21年郵送・WEB併用、22年WEB

【調査対象】各回とも約2万組の調査モニターに協力を依頼、発送数・回収数・回収率は以下の通り

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
発送数	21,598	21,485	19,133	18,217	20,056	20,413	20,678	20,951
回収数	16,574	15,843	15,300	14,421	15,306	15,646	15,598	13,398
回収率(%)	76.7	73.7	80.0	79.2	76.3	76.6	75.4	63.9

※学校段階により回収数に偏りがあるため、全体の分析を行うときは偏りを是正するために重みづけを行った


### ②子どものICT利用に関する調査 詳細は2023年11月に発表予定

【調査テーマ】小中高校生の学校と家庭でのICT機器利用の実態と意識

【調査時期】2023年2～3月

【調査方法】調査依頼は郵送で実施、回収はWEB

【調査対象】小学4年生から高校3年生までの子ども、発送数15,087、回収数9,182、回収率60.9%



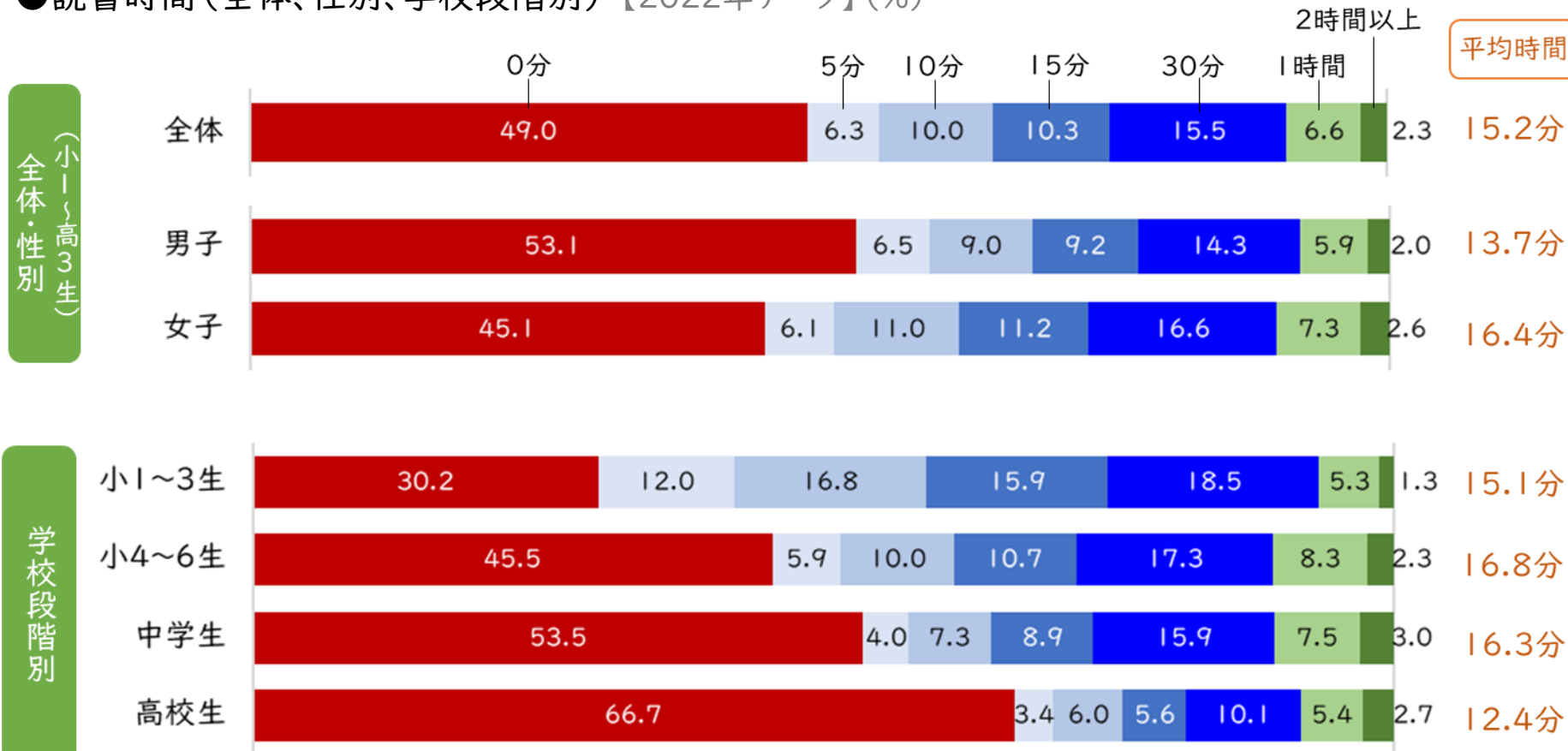
# 調査結果まとめ

- **読書行動の実態—約半数が読書時間「0分」、高校生は大学受験やスマホが読書ばなれに拍車!?**  
平日(1日当たり)の読書時間についてたずねた結果では、約半数が「読書はしない=0分」でした【p.5】。学年別では、学年が上がるにつれて「0分」が増加します【p.6】。性別では男子よりも女子【p.7】、成績別では下位層よりも上位層【p.8】、希望進路別では「大学・大学院まで」を希望する子ども【p.9】の読書時間が長い傾向があります。しかし、その傾向は小・中学生には顕著ですが、高校生にはみられません。高校生では、それまで本を多く読んでいた女子、成績上位層、大学・大学院希望者に読書ばなれが進みます。大学受験の準備が読書時間の減少に影響している可能性があります。また、高校生はスマホの利用時間が増える【p.19】ことから、その影響も無視できないと考えられます。
- **家庭の影響—保護者自身の文化活動や子どもに対する読書の勧めが重要。今すぐに行動を!**  
蔵書が多い家庭【p.10】、自分で能力を高める勉強をしている保護者【p.11】、本を読む大切さを伝えている保護者【p.12】の子どもほど、読書時間が長い傾向があります。家庭の文化的な背景が子どもの読書行動に影響しているためだと考えられ、保護者自身も家庭の中で読書に親しんだり、子どもに読書を勧めたりすることが重要だと言えます。実際に、小学校入学前に保護者から読み聞かせをもらった子どもは、その後の読書時間が長い【p.18】ことがわかりました。読書時間が長い子どもは、その後も継続して読書を多くする傾向【p.17】があるため、できるだけ早期に(=今すぐに)、読書習慣を身につける支援ができるとういと言えます。
- **読書の効果—成績、各種の経験、得意、関心、将来の目標などと相関あり。今後、因果の検証が必要。**  
中学生までは、読書時間が長い子どもは、成績上位層が多く、文化体験や調べる活動を多く行うなどさまざまな体験をしています【p.14】。また、自分の能力に対する認知では、理解や思考、表現などが得意だと評価【p.15】し、自分に対して自信を持っています【p.16】。ここに示した読書行動と望ましい特性の関係は、あくまで相関であり、読書行動の効果とは断定できませんが関連があることは明らかです。今後、読書の効果に関する因果関係についての検証が必要となります。
- **読書行動の変化—7年間で読書時間は微減。読書行動にも電子メディアの影響が!**  
2015年から22年にかけての各メディア利用時間の変化をみると、スマホ・携帯、パソコン・タブレットなどの電子メディアが増加する【p.21】する一方で、読書時間は微減でした【p.20】。しかし、読書行動そのものに電子メディアの影響が表れており、2割の子どもが電子書籍を、3割の子どもが電子コミックを読んでいます【p.22】。電子コミックは学年が上がるほど利用率が高く、高校生では約半数が利用しているという実態もあります【p.23】。こうした電子メディアを通じた読書行動の広がりも、この先、注目されるどころです。

## 読書時間—全体、性や学校段階による違い

## 約半数の子どもが読書時間「0分」、女子の方が読書時間は長い

## ●読書時間（全体、性別、学校段階別）【2022年データ】（%）



\*「あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答（%）。

\*小1~3生は保護者、小4~高3生は子どもの回答。「2時間以上」は「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。平均時間は「しない」を0分として算出。

\*全体、全体の性別の数値は、小1~3生：小4~6生：中学生：高校生=1：1：1：1になるように重みづけを行った。

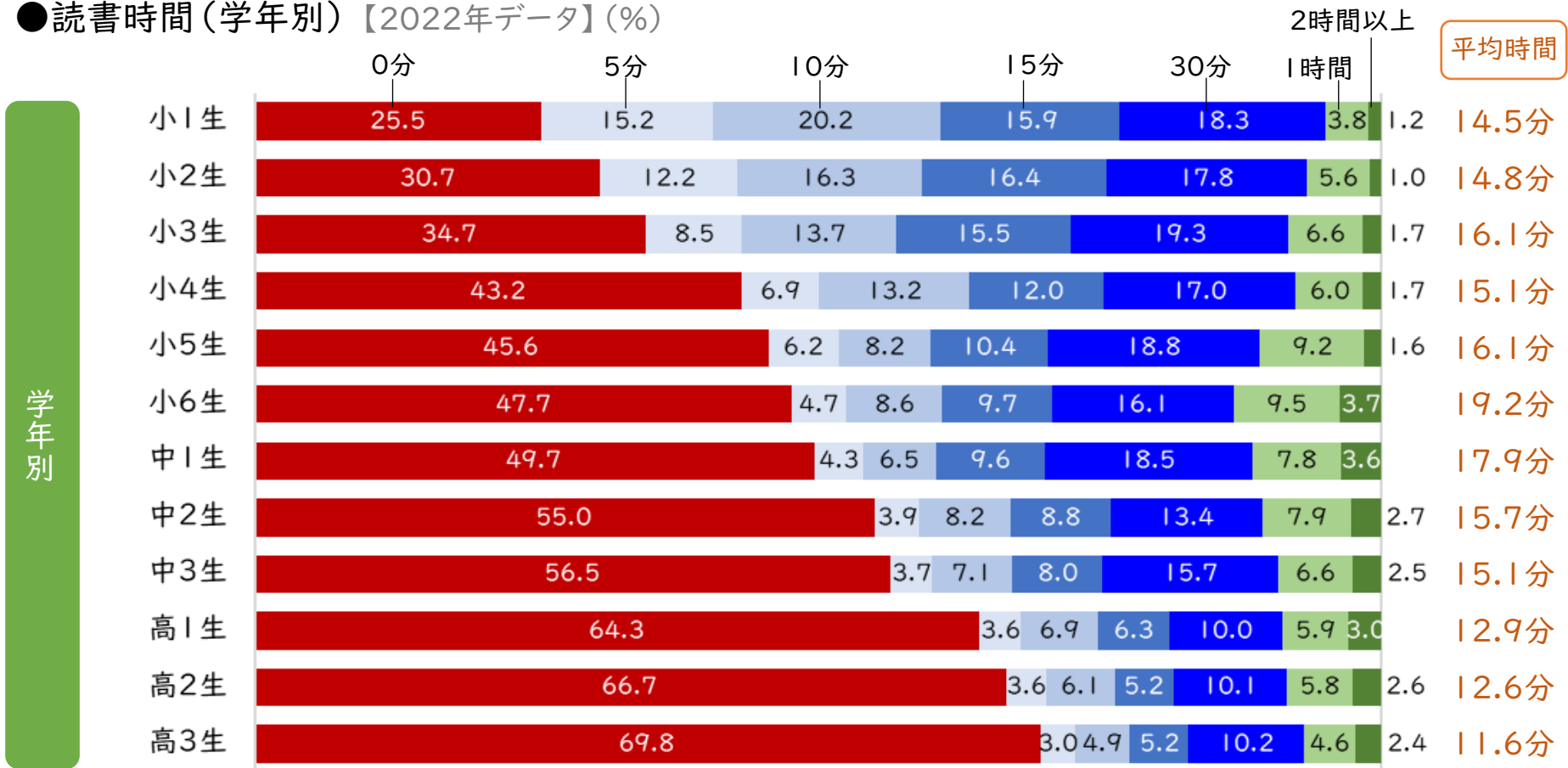
\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。



# 読書時間—学年による違い

## 読書時間「0分」は学年が上がるにつれて増加し、読書ばなれが進む

●読書時間(学年別)【2022年データ】(%)

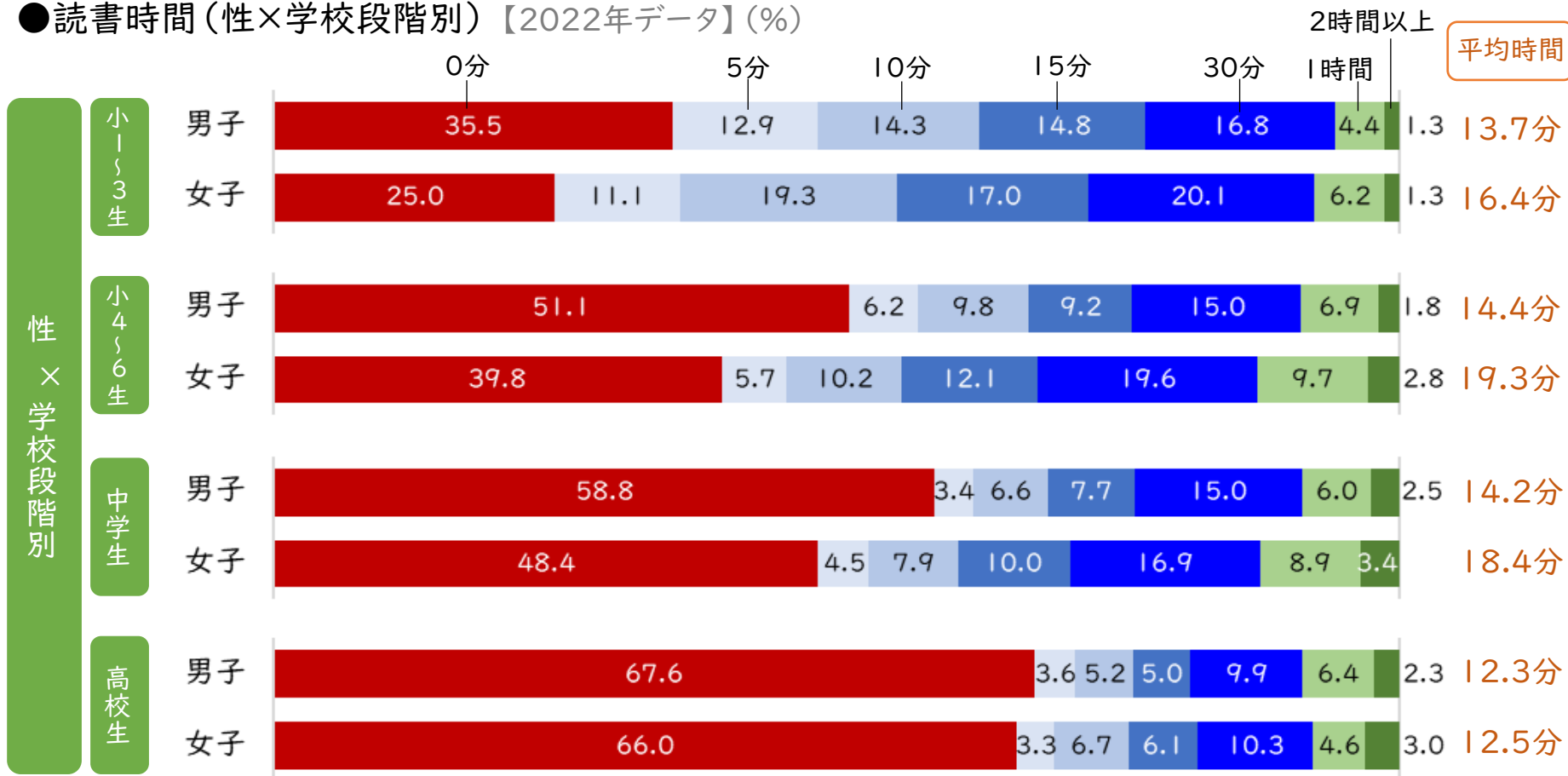


\*「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。  
 \*小1~3生は保護者、小4~高3生は子どもの回答。「2時間以上」は「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。平均時間は「しない」を0分として算出。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。

## 読書時間—性による違い

## 中学生までは女子の方が読書時間が長い、高校生は性差がなくなる

## ●読書時間（性×学校段階別）【2022年データ】（%）



\*「あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答（%）。

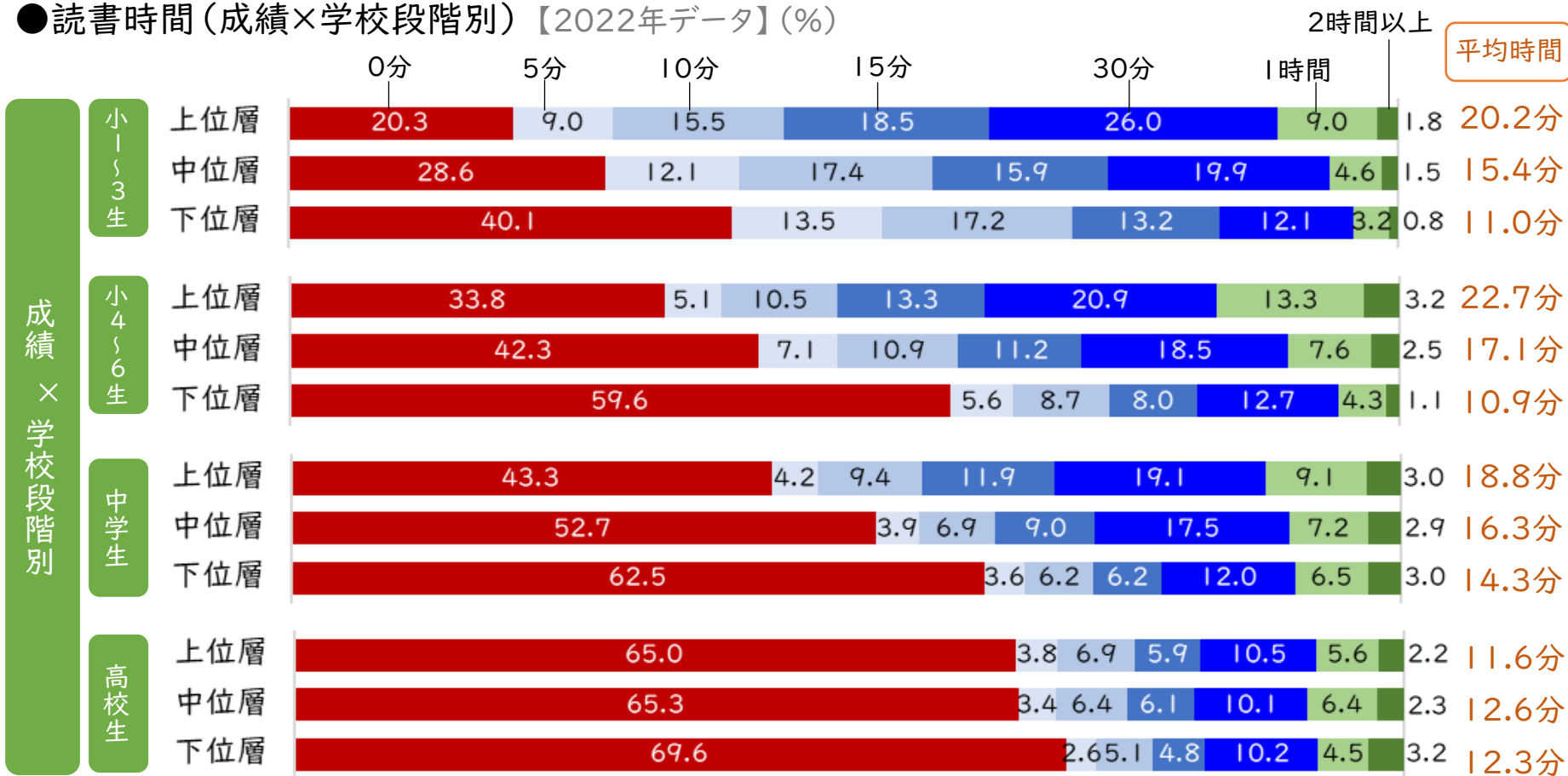
\*小1～3生は保護者、小4～高3生は子どもの回答。「2時間以上」は「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。平均時間は「しない」を0分として算出。

\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。

# 読書時間—成績による違い

## 中学生までは上位層ほど読書時間が長いですが、高校生は成績差がなくなる

●読書時間（成績×学校段階別）【2022年データ】（%）



\*「あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答（%）。

\*小1～3生は保護者、小4～高3生は子どもの回答。「2時間以上」は「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。平均時間は「しない」を0分として算出。

\*成績は、小1～3生は国と算、小4生は国・算・理・社、小5～高3生は国・算/数・理・社・英の5段階の自己評価を合算し、上位・中位・下位が3分の1ずつになるように分けた。

\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。

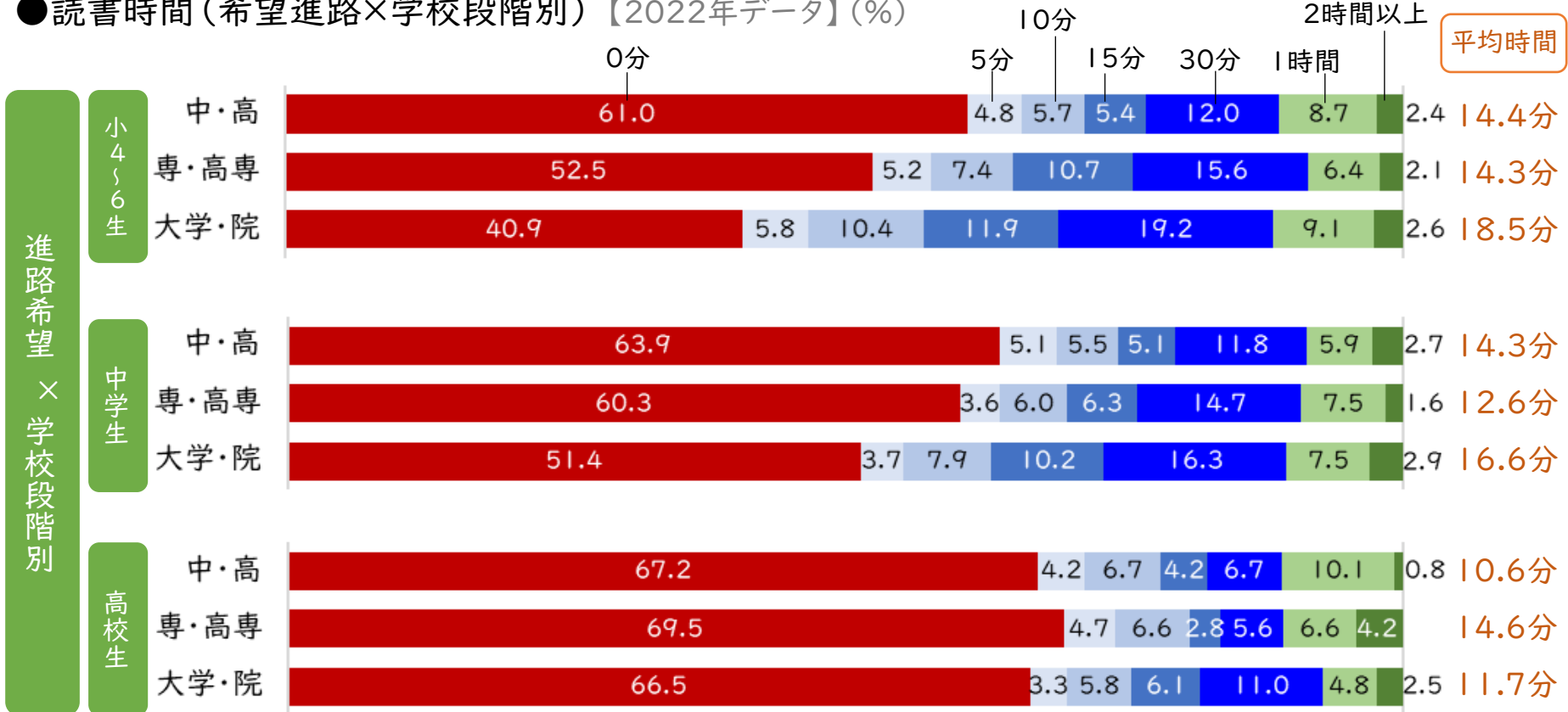




# 読書時間—希望進路による違い

## 中学生までは「大学・大学院まで」希望する子どもの読書時間が長い

●読書時間（希望進路×学校段階別）【2022年データ】（%）



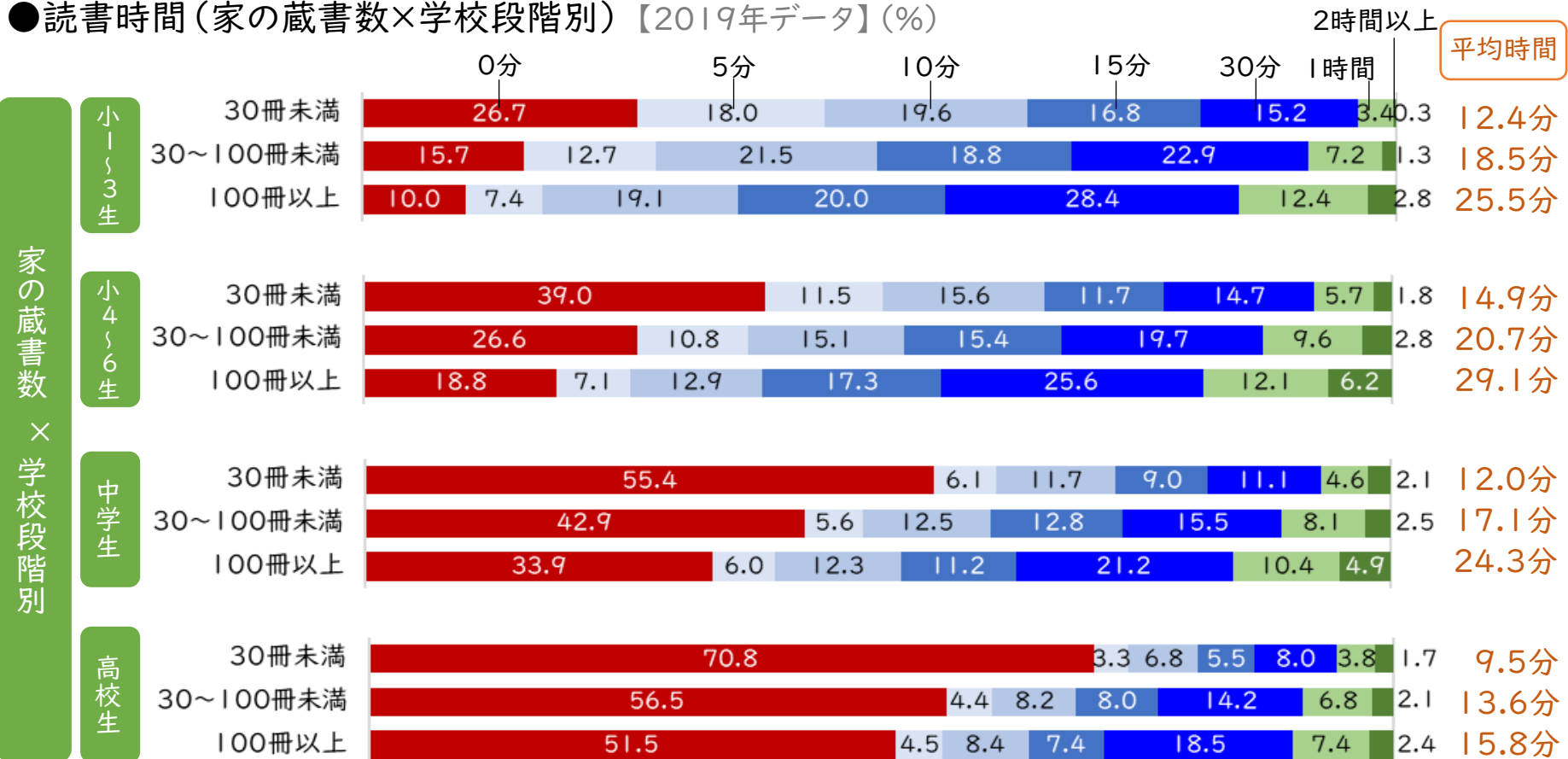
\*「あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答（%）。  
 \*回答はすべて子ども（小4〜高3生）の回答。小1〜3生は進路希望をたずねていないため、示していない。  
 \*「2時間以上」は「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。平均時間は「しない」を0分として算出。  
 \*「中・高」は「中学校」「高校」、「専・高専」は「専門学校」「高等専門学校」、「大学・院」は「短期大学」「四年制大学」「大学院」と回答した子ども。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。



# 読書時間—家の蔵書数による違い

## 蔵書が多い家庭の子どもほど読書時間が長い

●読書時間（家の蔵書数×学校段階別）【2019年データ】(%)



\*「あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。  
 \*小1～3生は保護者の回答。小4～高3生は子どもの回答。「2時間以上」は「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。平均時間は「しない」を0分として算出。  
 \*家の蔵書数は保護者の回答。「30冊未満」は「9冊以下」「10～29冊」、「30～100冊未満」は「30～49冊」「50～99冊」、「100冊以上」は「100～199冊」「200～499冊」「500冊以上」と回答した保護者の子ども。この設問は、2020～22年調査ではたずねていない。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2019年。

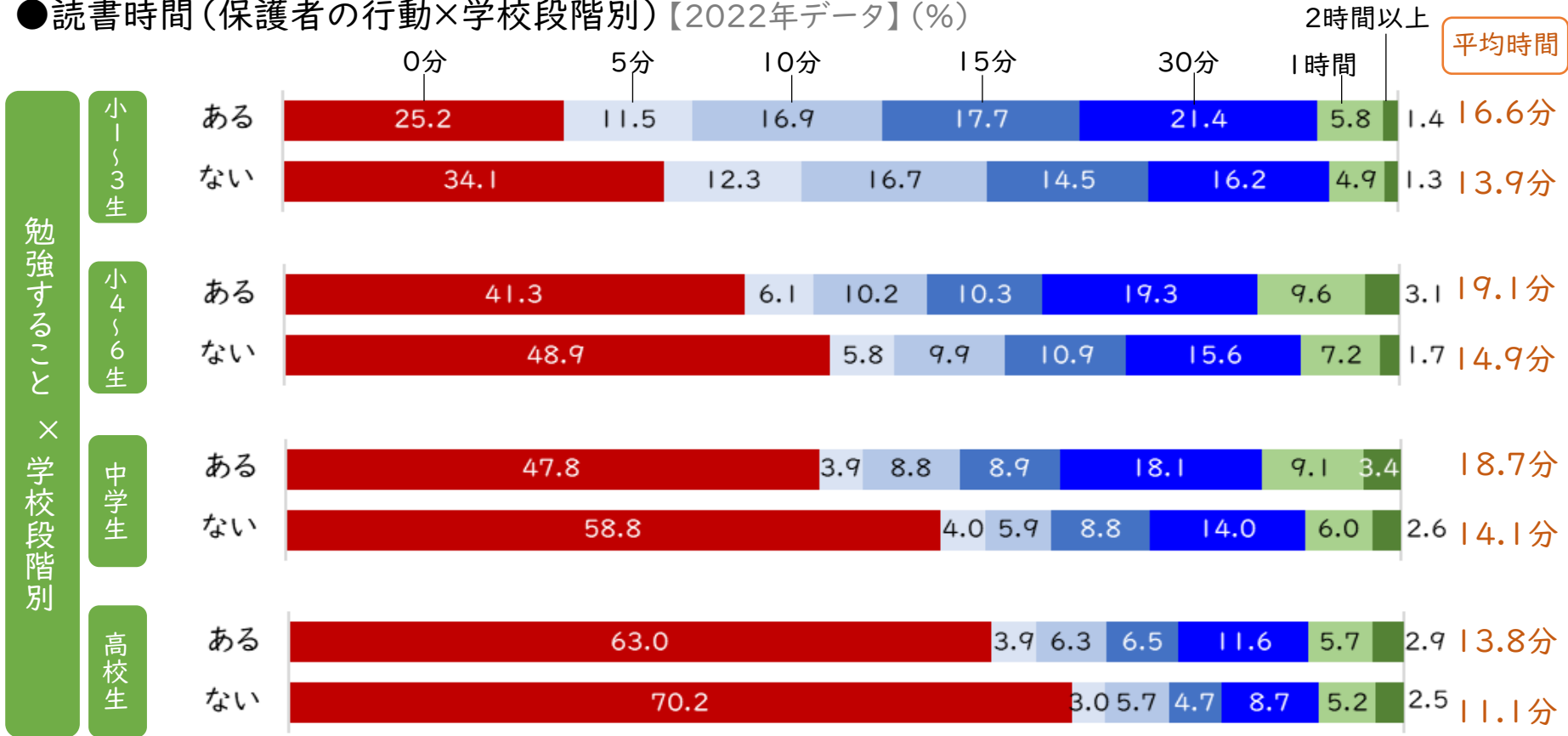


# 読書時間－保護者の行動(勉強すること)による違い



## 「能力を高める勉強」をしている保護者の子どもほど読書時間が長い

●読書時間(保護者の行動×学校段階別)【2022年データ】(%)



\*「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。

\*小1～3生は保護者、小4～高3生は子どもの回答。「2時間以上」は「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。平均時間は「しない」を0分として算出。

\*「自分の能力を高めるための勉強をする」かどうかは、保護者に対する質問。「ある」は「よくある」「ときどきある」、「ない」は「あまりない」「まったくない」と回答した保護者の子ども。

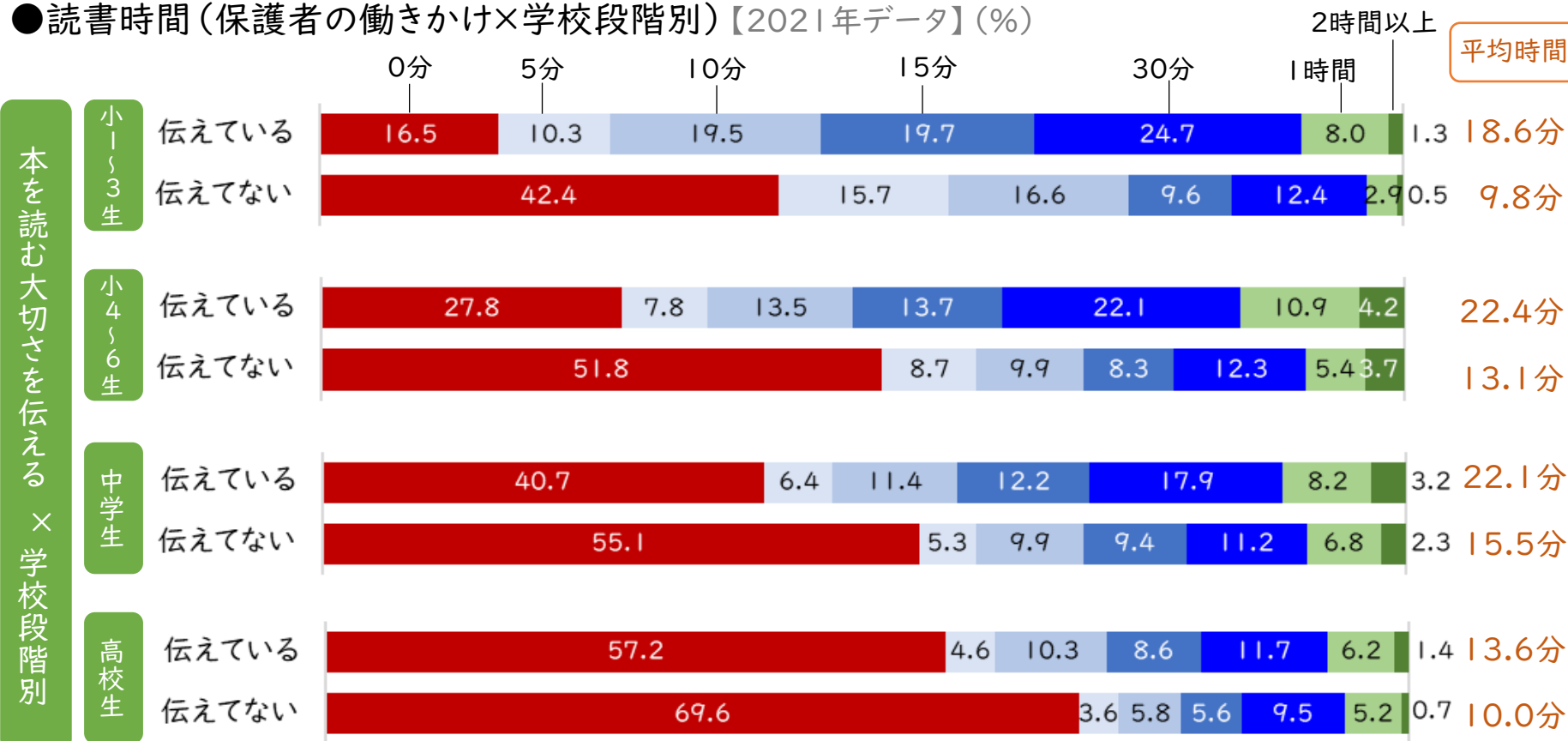
\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。



# 読書時間－保護者の働きかけによる違い

## 「本を読む大切さ」を伝えている保護者の子どもほど読書時間が長い

●読書時間（保護者の働きかけ×学校段階別）【2021年データ】（%）



\*「あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答（%）。

\*小1～3生は保護者、小4～高3生は子どもの回答。「2時間以上」は「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。平均時間は「しない」を0分として算出。

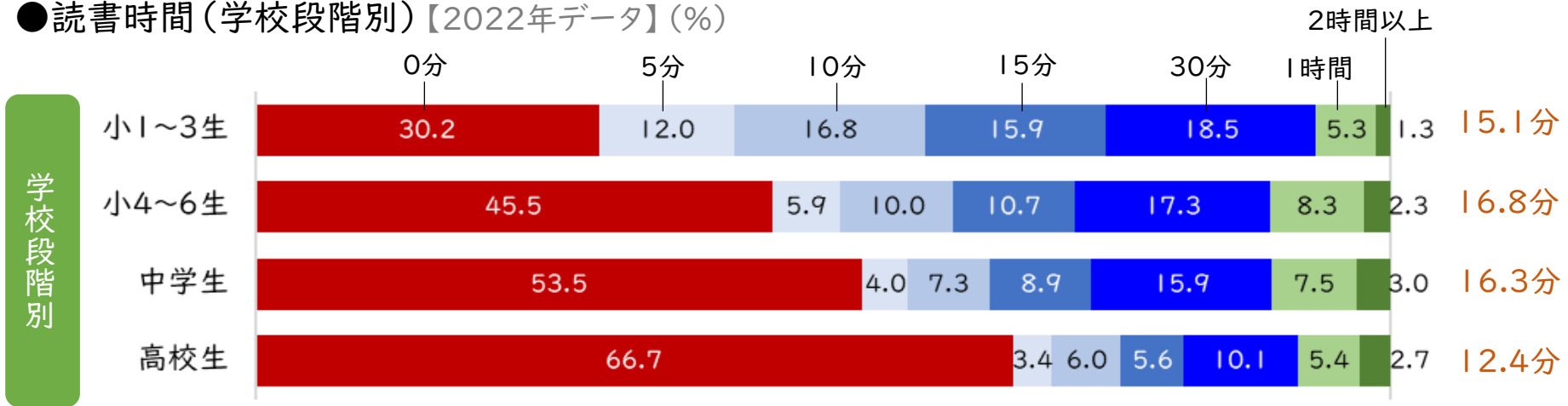
\*「本や新聞を読むこと」の大切さを伝えているかどうかの質問は、保護者が回答。「伝えている」は「よく伝えている」「ときどき伝えている」、「伝えてない」は「あまり伝えていない」「まったく伝えていない」と回答した保護者の子ども。この設問は、2022年調査ではたずねていない。

\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2021年。



## 読書行動はどのような意識や行動と関連しているのか？

●読書時間(学校段階別)【2022年データ】(%)



**不読層**  
0分の子ども

**中間層**  
5~30分の子ども

**多読層**  
1時間以上の子ども

各層の意識や行動の違いを検証し、読書行動との関連を検討する

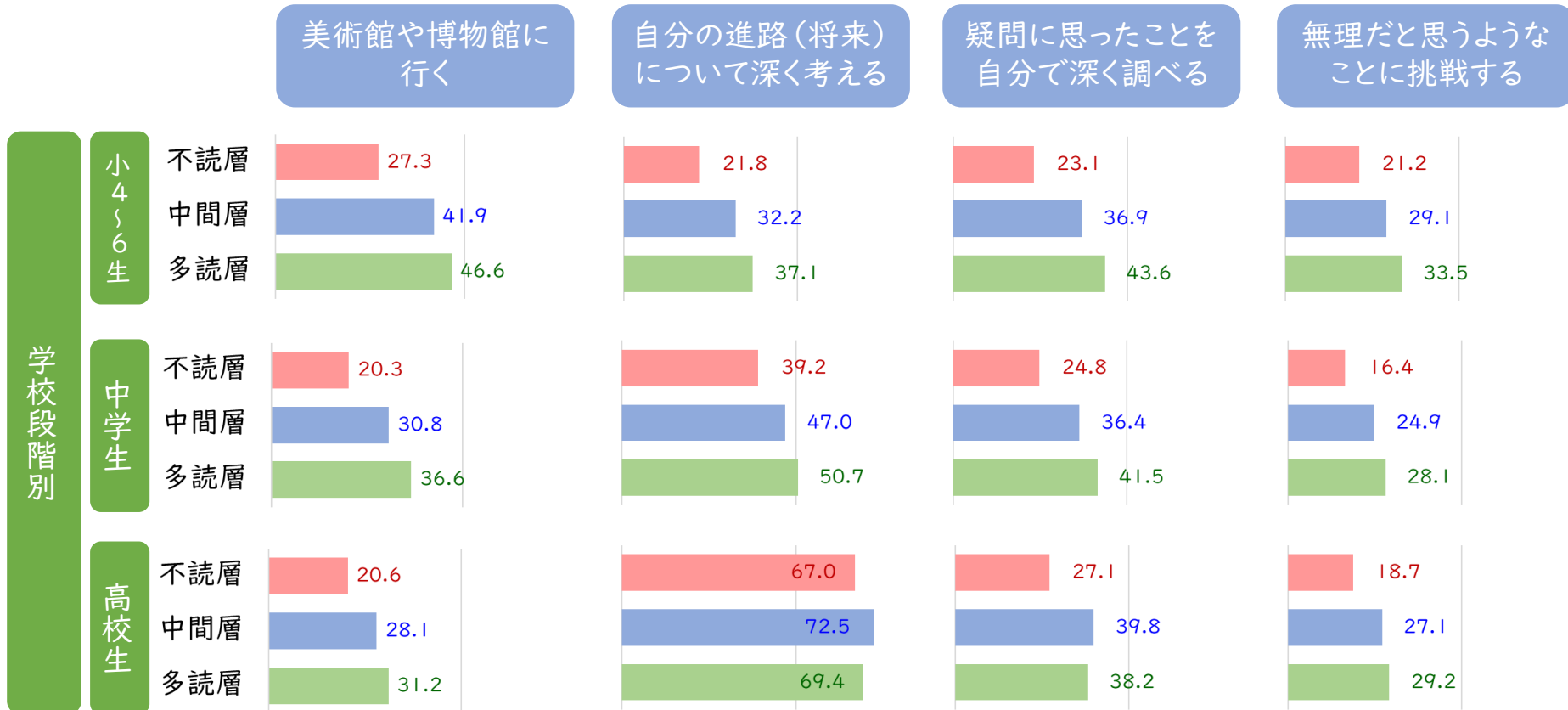
※子どもの回答が得られている小4~高3生について分析



# 読書行動との関連－1年間で経験したこと

## 本を読んでいる子どもほど、文化体験や調べる活動などを多く行っている

● 1年間で経験したこと（読書行動×学校段階別）【2022年データ】（%）



\*「この1年くらいの間に、あなたは次のようなことを経験しましたか」という設問で選択した比率（複数回答、%）。

\*不読層は1日の読書時間が「0分」の子ども、中間層は「5分」「10分」「15分」「30分」の子ども、多読層は「1時間」「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の子ども。

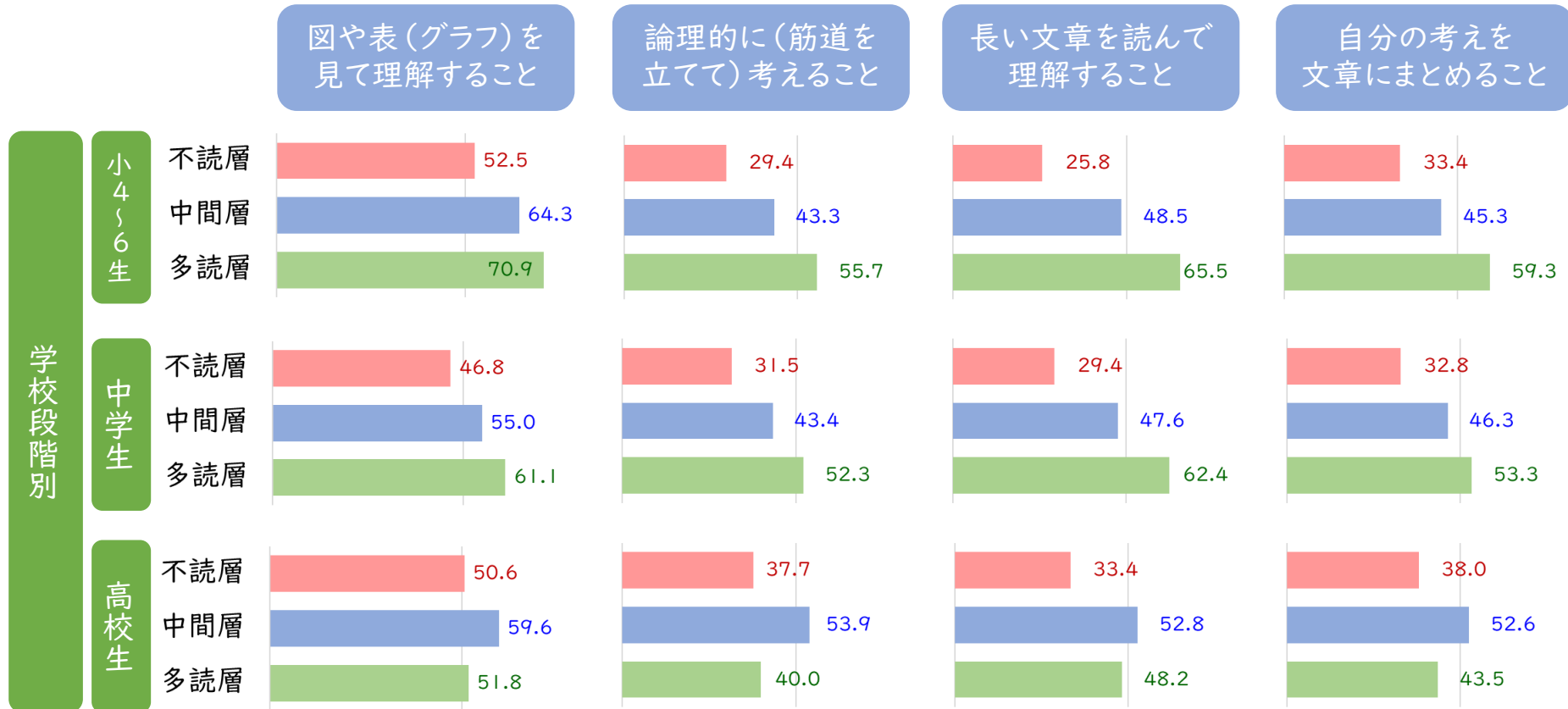
\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。



# 読書行動との関連—得意(理解・思考・表現)

## 小中学生では、本を多く読んでいる子どもほど、理解・思考・表現が得意

●得意(理解・思考・表現)(読書行動×学校段階別)【2022年データ】(%)



\*「あなたは次のようなことが得意ですか、苦手ですか」という設問で「とても得意」「やや得意」と回答した比率の合計(%)。

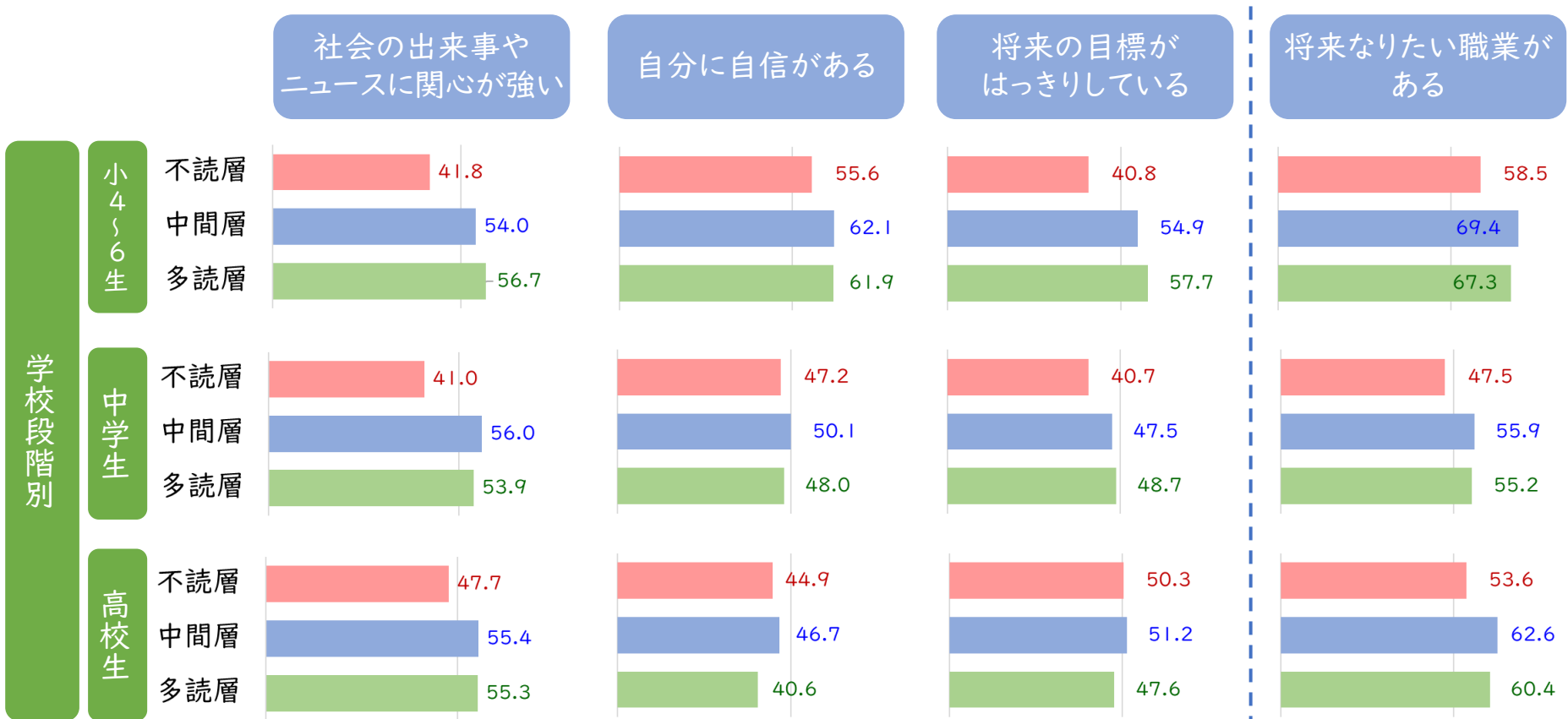
\*不読層は1日の読書時間が「0分」の子ども、中間層は「5分」「10分」「15分」「30分」の子ども、多読層は「1時間」「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の子ども。

\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。



## 不読層は、ニュースへの関心や自信、将来の目標などの肯定率が低い

●特性/なりたい職業（読書行動×学校段階別）【2022年データ】（％）



\*左の3項目は「あなた自身のことについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか」という設問で、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答された比率の合計（％）。  
 \*右の1項目は「あなたには、将来なりたい職業（やりたい仕事）はありますか」という設問で、「ある」と回答された比率（％）。  
 \*不読層は1日の読書時間が「0分」の子ども、中間層は「5分」「10分」「15分」「30分」の子ども、多読層は「1時間」「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の子ども。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。

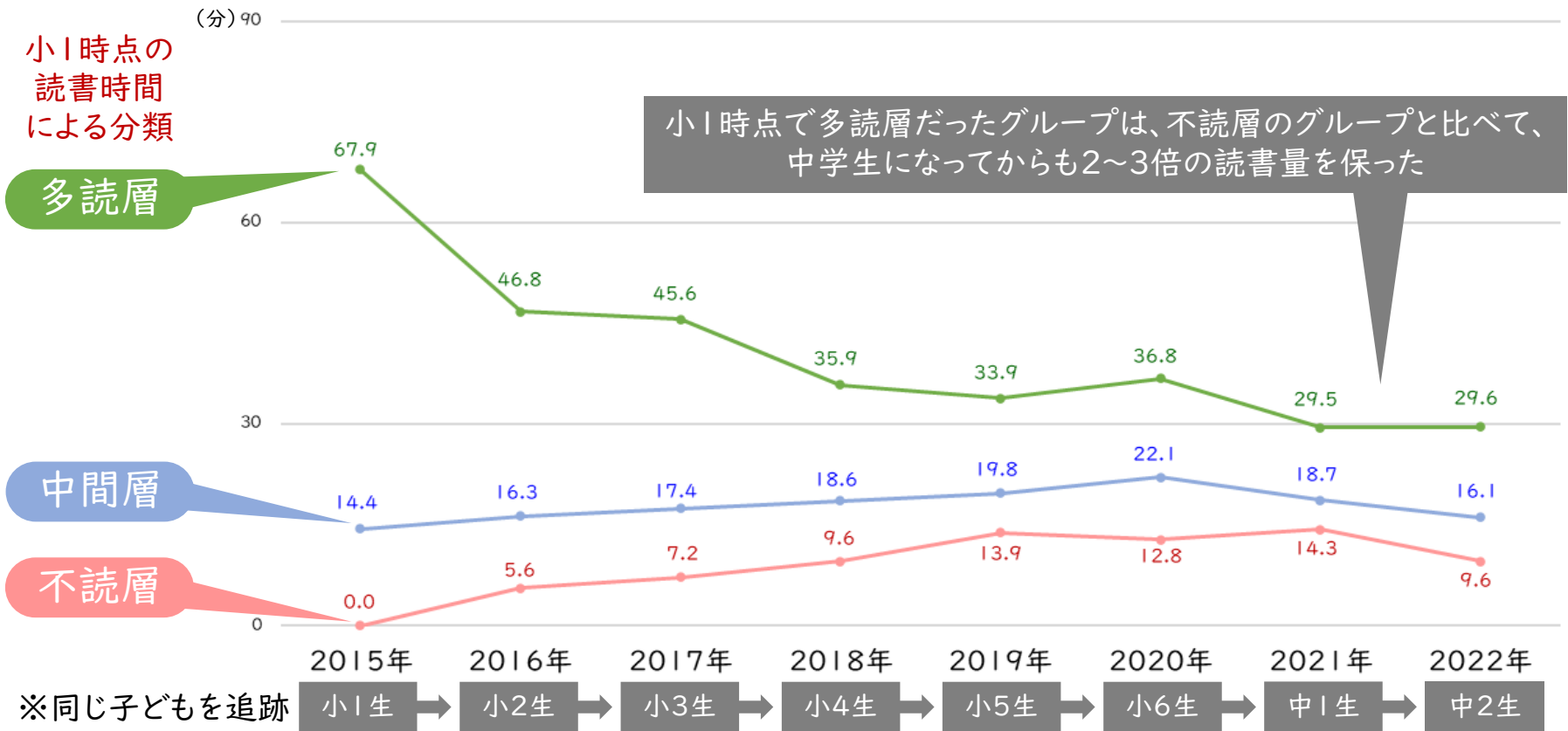




# 読書時間の個人変化(2015年・小1→22年・中2)

## 読書時間が長い子どもは、その後も継続して多く読書する傾向がある

●読書時間の個人変化(小1時点の読書量別、小1→中2を追跡)【2015-22年データ】(分)

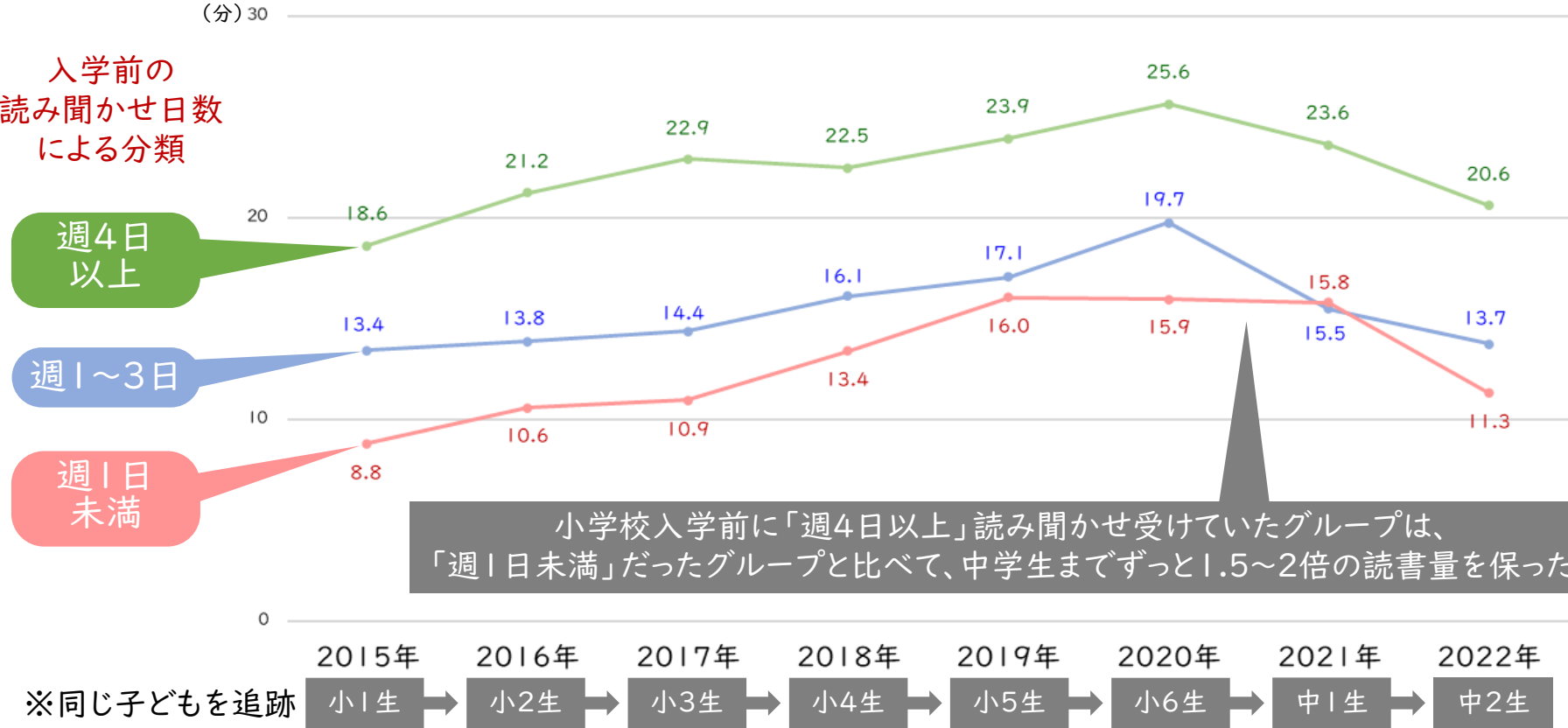


\*「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答から平均時間(分)を算出。「しない」を0分として算出。  
 \*小1~3生は保護者、小4~中2生は子どもの回答。小1時点の保護者調査での読書時間についてたずねた質問をもとに分類。不読層は小1時点の1日の読書時間が「0分」の子ども、中間層は「5分」「10分」「15分」「30分」の子ども、多読層は「1時間」「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の子ども。同じ集団の各学年での読書時間を算出。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2015-22年。



## 入学前に読み聞かせを受けた子どもは、その後の読書時間も長い

●読書時間の個人変化 (入学前の読み聞かせ日数別、小1→中2を追跡) 【2015-22年データ】 (分)



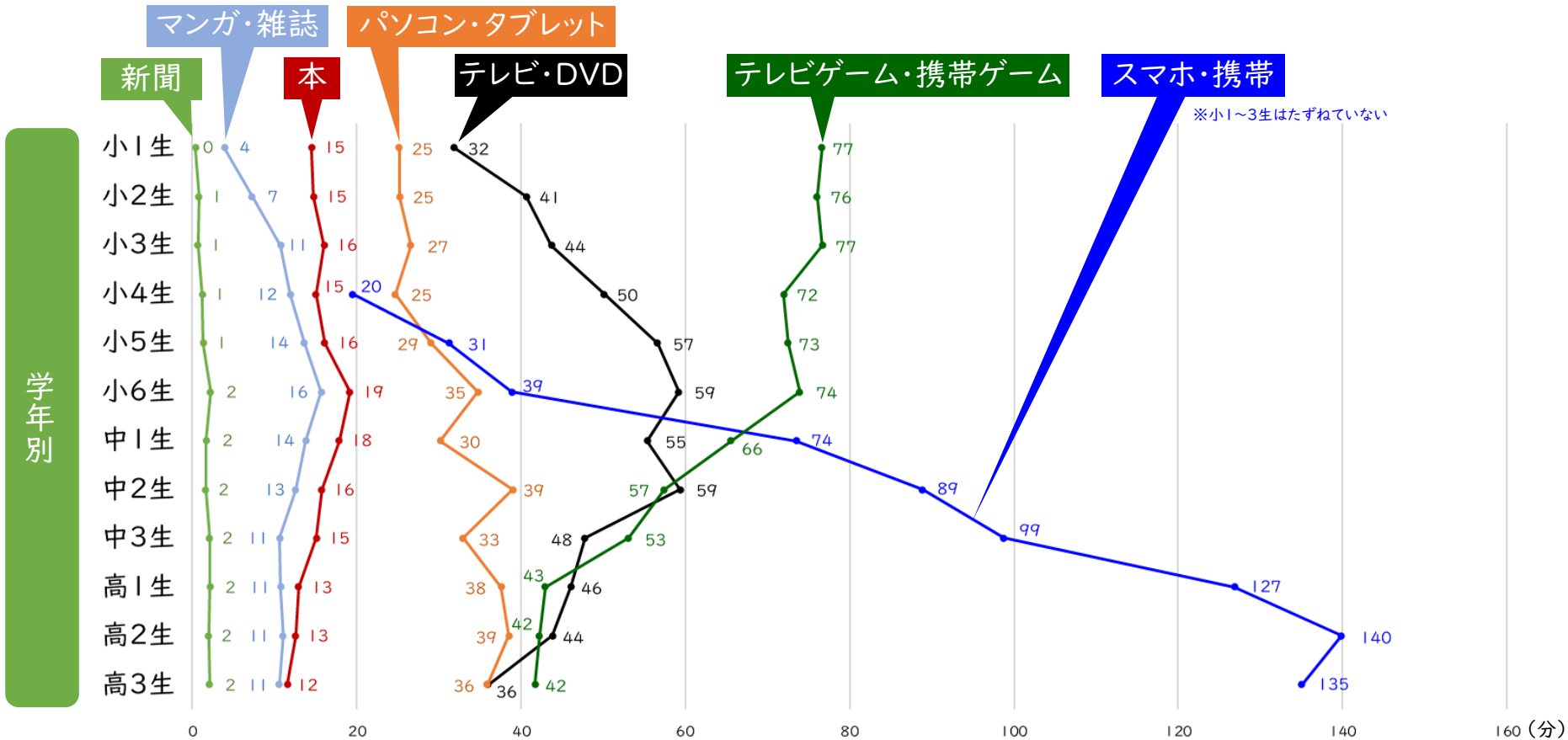
\*「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答から平均時間(分)を算出。「しない」を0分として算出。  
 \*小1~3生は保護者、小4~中2生は子どもの回答。小1時点の保護者調査で、小学校入学前の読み聞かせの日数についてたずねた質問をもとに分類。「週4日以上」は「ほとんど毎日」「週に4~5日」、「週1~3日」は「週に2~3日」「週に1日」、「週1日未満」は「月に1~3日」「ほとんどしなかった」と回答した保護者の子ども。同じ集団の各学年での読書時間を算出。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2015-22年。



# 各メディアの利用時間(1日当たりの平均時間)

## スマホの時間が学年が上がるとともに急増、読書(本)は10分台で推移

●各メディアの利用時間(1日当たり、学年別)【2022年データ】(分)



\*「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の各メディアの利用時間の平均値(分)を算出。「しない」を0分として算出。

\*小1~3生は保護者、小4~高3生は子どもの回答。

\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2022年。

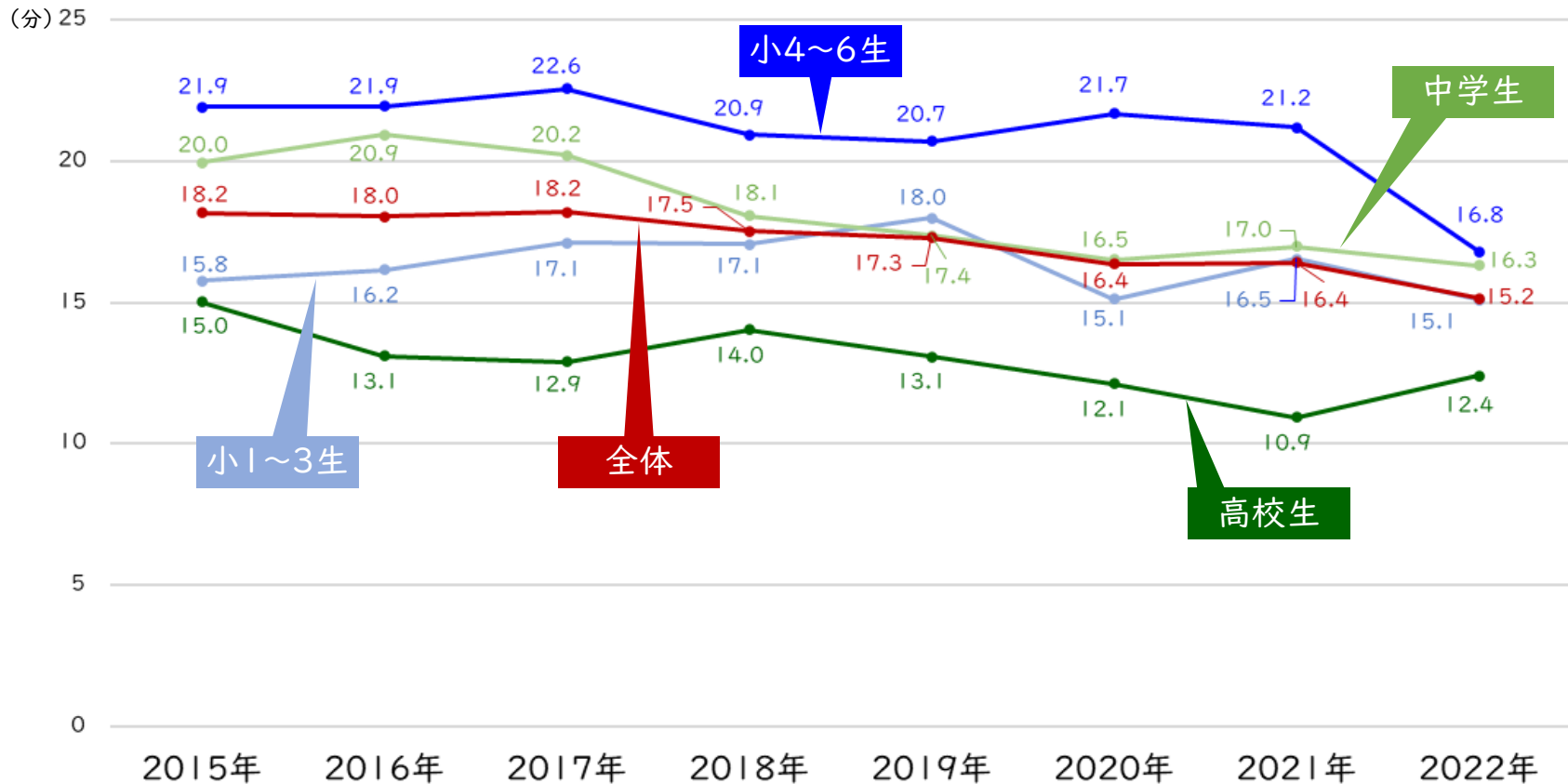


# 読書時間の経年変化(2015-22)



## 読書の平均時間は、2015年から22年にかけて緩やかに減少

●読書の平均時間の推移(1日当たり、学校段階別)【2015-22年データ】(分)



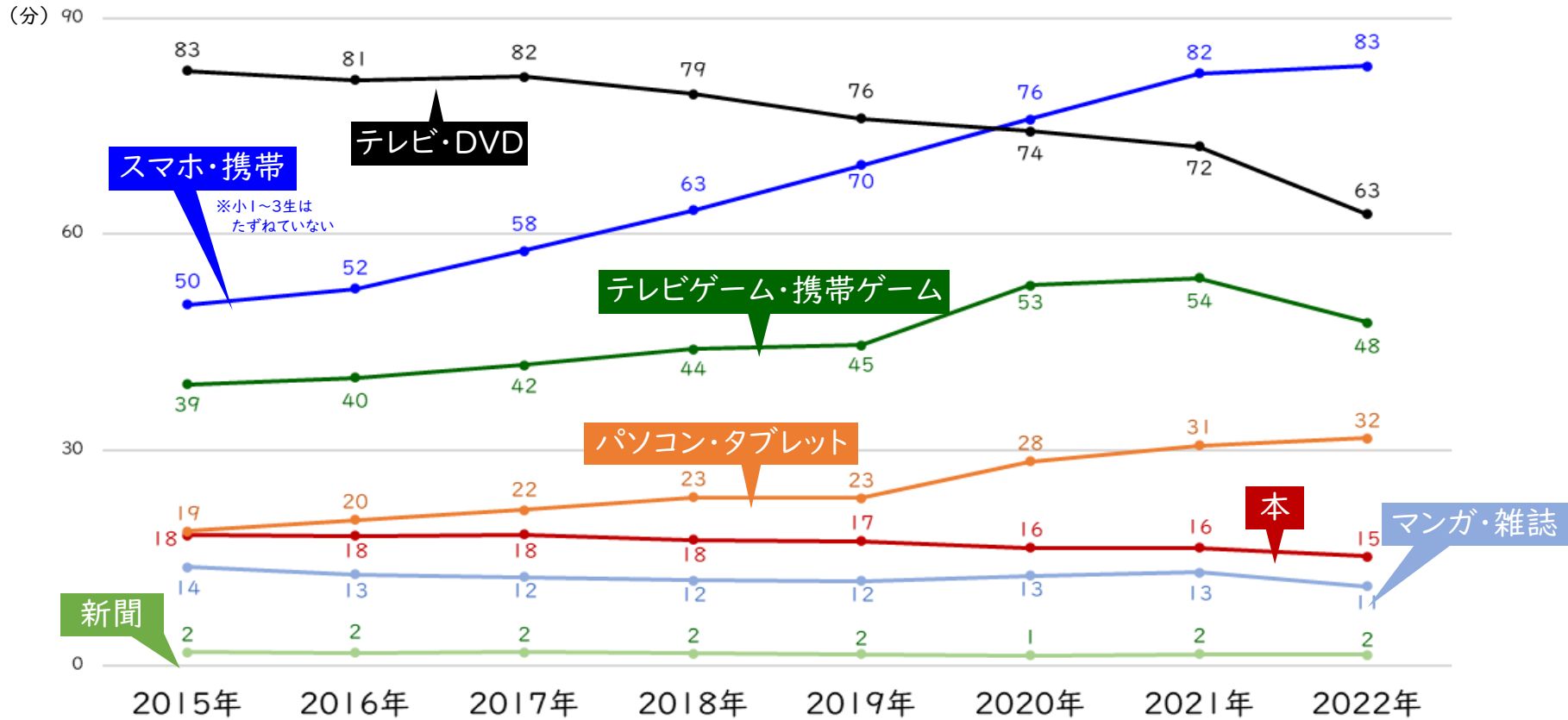
\*「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答から平均時間(分)を算出。「しない」を0分として算出。  
 \*小1~3生は保護者、小4~高3生は子どもの回答。全体の数値は、小1~3生:小4~6生:中学生:高校生=1:1:1:1になるように重みづけを行った。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2015-22年。



# 各メディアの時間の経年変化(2015-22)

## スマホ・携帯、パソコン・タブレットなどの電子メディアの時間が増加

●各メディアの平均時間の推移(1日当たり、全体)【2015-22年データ】(分)



\*「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の各メディアの使用時間に対する回答から平均時間(分)を算出。「しない」を0分として算出。

\*小1~3生は保護者、小4~高3生は子どもの回答。「スマホ・携帯」以外の全体の数値は、小1~3生:小4~6生:中学生:高校生=1:1:1:1になるように重みづけを行った。「スマホ・携帯」は小1~3生にはたずねていないため、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

\*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2015-22年。



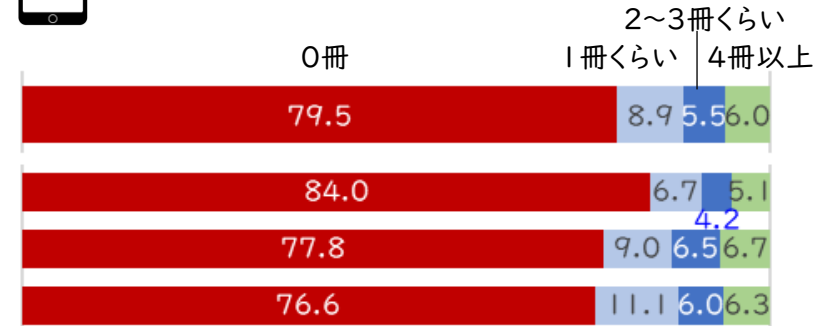
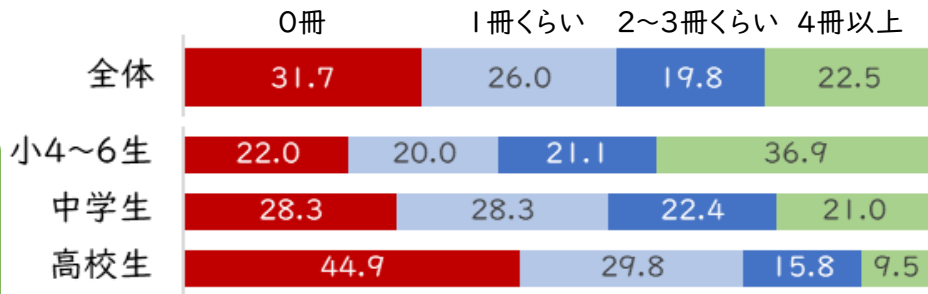
# 紙版・電子版の利用冊数(月当たり)

## 全体では、電子書籍は2割、電子コミックは3割強が利用

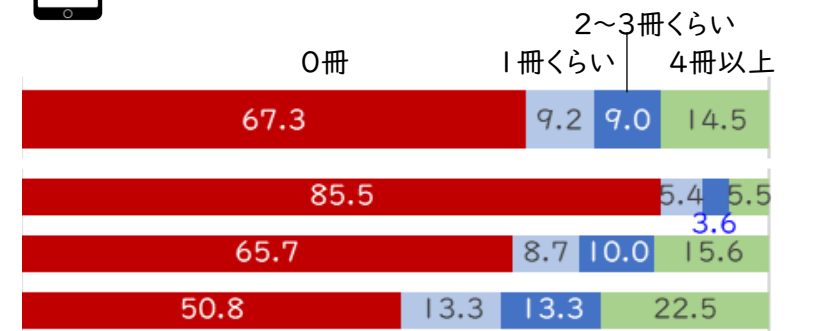
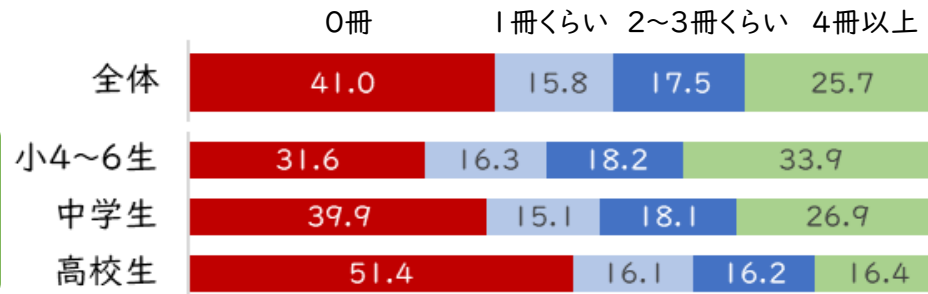
●各媒体で読んでいる冊数(月当たり、全体、学校段階別)【2023年データ】(%)



学校段階別



学校段階別



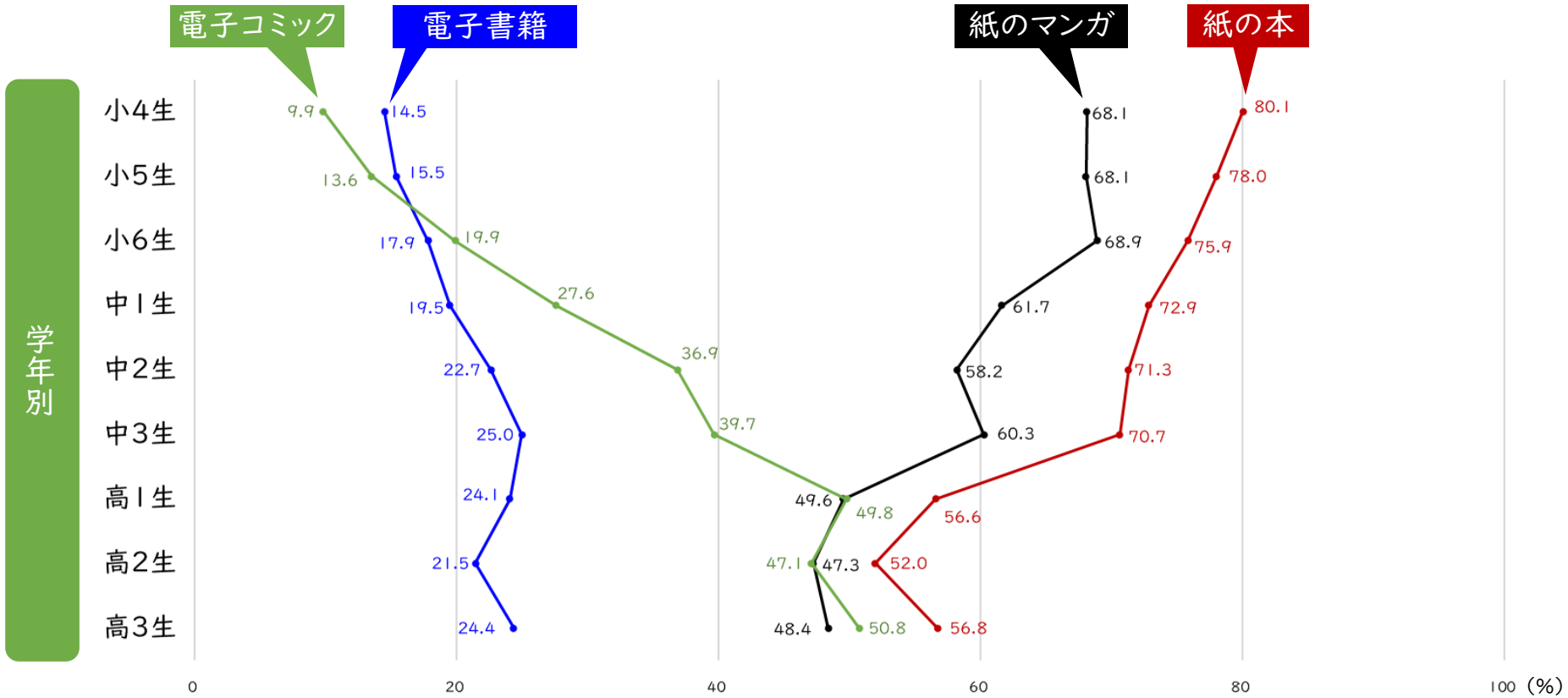
\*「あなたは、紙の本やマンガと、ICT機器を使って読む本やマンガ(電子書籍、電子コミック)を、月に何冊くらい読みますか」という設問に対する回答。  
 \*「4冊以上」は、「4~5冊くらい」「6~9冊くらい」「10冊以上」の合計の比率(%)。全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どものICT利用に関する調査2023」2023年。



# 紙版・電子版の利用率(月に1冊以上の比率)

学年が上がるとともに、電子書籍は緩やかに、電子コミックは大きく増加

●各媒体の利用率(月に1冊以上の比率、学年別)【2023年データ】(%)



\*「あなたは、紙の本やマンガと、ICT機器を使って読む本やマンガ(電子書籍、電子コミック)を、月に何冊くらい読みますか。」という設問に対する回答。  
 \*数値は、「1冊くらい」「2~3冊くらい」「4~5冊くらい」「6~9冊くらい」「10冊以上」の合計の比率(%)。  
 \*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どものICT利用に関する調査2023」2023年。



秋田喜代美, 印刷中, 小中高校生の読書行動の7年間の縦断的变化とコロナ禍による影響の検討, 『パネル調査にみる子どもの成長—学びの変化・コロナ禍の影響』(仮), 勁草書房.

ベネッセ教育総合研究所, 2021, 読書履歴を活用したデータ分析  
<https://berd.benesse.jp/special/bigdata/ebookanalysis.php>

ベネッセ教育総合研究所, 2017, 子どもたちの読書活動の実態に関して  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shougai/040/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2017/09/21/1395532\\_001\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/040/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2017/09/21/1395532_001_1.pdf)

濱田秀行, 2022, 小中高生の不読率について, 子供の読書活動推進に関する有識者会議(第4回)資料  
[https://www.mext.go.jp/content/20220929-mxt\\_chisui02-000025251\\_17.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220929-mxt_chisui02-000025251_17.pdf)

濱田秀行・秋田喜代美, 2022, 小中高生の読書活動に関する新型コロナウイルス感染症の影響:不読率に着目して, 第66回日本読書学会大会発表要旨集, 138-147.  
<https://www.city.shinjuku.lg.jp/content/000361164.pdf>

猪原 敬介, 2022, 小・中・高校生の学校外の読書時間についての横断的・縦断的分析—4 時点 3 年間の大規模追跡調査に基づく検討, 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター「2021 年度参加者公募型二次分析研究会『子どもの生活と学びに関する親子調査』(パネル 調査)を用いた親子の成長にかかわる要因の二次分析 研究成果報告書」140-152.  
<https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/pdf/RPS080.pdf>